

令和4年10月7日

筑紫野市議会
議長 高原 良視 様

建設環境常任委員会
委員長 白石 卓也

令和4年度 建設環境常任委員会研修報告書

本委員会は、下記のとおり研修を行いましたので、報告いたします。

記

- 1 日時
令和4年9月26日（月）13時30分から
- 2 研修テーマ
「福岡県における気候変動適応の取組」について
福岡県保健環境研究所気候変動適応センター 高尾佳子氏
- 3 研修内容
別紙のとおり

福岡県における気候変動適応の取り組み

講師：福岡県気候変動適応センター 高尾 佳子

場所：筑紫野市役所 議会棟（第1委員会室）

○気候変動について

- ・ 現状と将来予測
- ・ 緩和と適応

○気候変動適応について

- ・ 気候変動適応法
- ・ センターの紹介
- ・ 影響と適応策の紹介
- ・ ホームページ等提供情報の紹介

○気候変動の影響の例

- ・ 天気（瞬時から2,3日間の大気の状態）
- ・ 天候（数日間から1か月程度までの期間の大気の状態）
- ・ 気候地球上において1年を周期として繰り返す大気の状態
- ・ 気象（雲・虹・雨・風・等、大気中で起こる現象）

※現状100年あたり福岡は2.45℃気温が上昇している

※将来予測・・・厳しい温暖化対策を行っても気温上昇は避けられない。

気候変動の影響例（ダム水質悪化、森林種類の変化、桜の開花

時期の変化地下鉄浸水被害、蚊の感染症、スキー場の雪不足 etc)

○緩和と適応・・気候変動対策→原因を少なく影響に備える

○気候変動適応法・・適応策を法的に位置づけ、関係者が一丸となって適応策を強力に推進する（適応策の総合的推進・情報基盤の整備・地域での適応策の強化）

○福岡県気候変動適応センター（太宰府市大字向佐野39）業務

福岡県保健環境研究所内（県の出先機関・県民の健康と快適な環境を守るための試験研究を行う）・・・令和元年8月7日設置・気候変動影響及び適応に関する情報の収集、整理、分析及び提供・事業者や県民の気候変動適応に関連する相談への対応・気候変動適応計画や適応策に係る技術的助言

○影響と適応策に関する7分野

・農業、森林、林業、水産業・水環境、水資源・自然携帯・自然災害、沿岸域

・健康・産業、経済活動・県民生活、都市生活

○農業、森林、林業、水産業

現状・将来予測される影響

- ・農作物の品質が悪くなる
- ・病虫害の被害の範囲が広がる
- ・養殖ノリの種付け時期が遅れる
- ・赤潮が長期化する

適
応
策

- ・ 高温に強い品種や栽培技術などの普及を進める
- ・ 病害虫を防ぎ取り除く対策を指導する（農業者へ）
- ・ 海水温変化に適応したノリ養殖を進める
- ・ 水温や赤潮情報等の定期モニタリング結果の情報発信

○お米への影響

- ・ 穂が出て収穫までの間に気温が高い日が続くと・・・品質が悪くなり収穫量減
- ・ 整粒割合で等級が変わる
- ・ 未熟粒は味や食感が悪い

○お米の適応事例・・・高温に強い品種改良→元気つくし（高温の時でも品質が
良いお米ができる）

○水環境・水資源（現状、将来予測される影響→適応策）

- ・ 水温上昇、水質変化等→雨水利用や節水意識の向上を図る、森林の水源かん
用機能保全等

○森林の機能・・・健全な森林は、洪水や渇水を緩和し水質を浄化する水源か
ん養機能、土砂の流出や崩壊を防ぐ土砂災害防止機能、温
室効果ガスである二酸化炭素を吸収固定する環境保全機
能等様々な公益的機能がある

○森林の水源かん養機能の保全・・・緑豊かな森林を次世代に引き継ぐ活動

- ・ 荒廃森林再生事業・松くい虫被害対策強化事業・森林づくり活動公募事業
- ・ 情報発信事業等

○自然生態系

現状・将来予測される影響

- ・ 野生鳥獣による影響
- ・ 気温の上昇により落葉広葉樹から常緑広葉樹へ移り変わる
- ・ 気温の上昇と雨の降り方の変化によりスギ林が衰退する

適応策

- ・ 野生動物の保護や捕獲により数を管理し影響を防ぐ
- ・ 生物多様性の保全と再生のため地球温暖化対策と合わせて取り組む
- ・ 森林資源のモニタリング

○鳥獣被害対策・・・シカの個体数増加や分布拡大が加速

- ・ スギやヒノキなどの植林木への食害、イネや豆類等の農作物への食害
- ・ 野生動物の保護や捕獲により数を管理

○自然災害・沿岸域

現状・将来予測される影響

- ・ 短時間強雨や大雨が発生し極めて大きな水害が発生する
- ・ 強い台風の増加などで高潮偏差が大きくなったり、波が強くなったり
- ・ 中長期的に海面水位が上昇する

適
応
策

- ・市町村と連携して県民の皆さんへ防災意識啓発をする
- ・地すべり防止施設や急傾斜地面崩壊防止施設を整備する
- ・河道や河川堤防を整備する
- ・海岸浸食が進む砂浜の回復など海岸環境の保全をする

○浸水・浸水対策（福岡市の例）・・・雨水整備 D_o プラン 2026

- ・雨水幹線の整備、ポンプ場申新設、横断側溝の設置、雨水貯留施設の貯留能力の向上

○健康

現
状
・
将
来
予
測
さ
れ
る
影
響

- ・気温の上昇で死亡者数が増える
- ・デング熱などの感染症を媒介する蚊の生息域が広がる

適
応
策

- ・県ホームページなどを使って熱中症予防の普及啓発や注意喚起をする
- ・蚊媒介感染症に関するリスク評価の実施

○熱中症対策・・国が行う熱中症対策例-熱中症警戒アラート

○産業、経済活動 県民生活、都市生活

現状・将来予測される影

- ・記録的な豪雨で地下の浸水や停電、地下鉄への影響、濁水や洪水水質悪化などで水道インフラへの影響が出る
- ・豪雨や台風で切土斜面へ影響が出る等
- ・都市部の気温上昇で、熱中症リスクが増える、快適ではなくなる
- ・気候変動での気温上昇とヒートアイランド現象が重なって起こる

適応策

- ・災害時緊急支援物資の保管や荷役などに関して協定を結ぶ
- ・災害に強い水道施設をつくる
- ・気温の上昇抑制等に効果がある緑地や水面を確保する
- ・都市公園事業、道路緑化木を推進する

○企業との協定・・・災害発生時に皆さんの命を守るため、福岡県は多くの企業等に協力を依頼している

○それぞれの適応への取り組み・・国、県、自治体、事業者、個人それぞれで適応策に取り組む

○ひとりひとりは何をするの？

(まずは知ることから)

(できることから**行動**する)

- ・周りで起こっている変化
- ・提供されている情報の収集

- ・災害対策
- ・熱中症対策・感染症対策

<感想・まとめ>

世界に目を向けてみると災害が起こる原因として、紛争であったり、飢餓、飢饉、温暖化、ごみの問題等挙げればきりが無い、しかしその殆どの要因・引き金は人類による近代社会の営みによるものであるとの認識が他人事として捉えられているのではないかと思う。自分さえよければとの考えを変えない限り環境破壊に待った！することが出来ない。建設環境委員会としてだけでなく、市議会としても「気候変動適応の取り組み」をしていく事と、市民の皆様とも問題点や課題解決に向かわなければならない。

(研修風景)

